

スキーOのテレインとして今年初登場したのは福島県猪苗代湖畔。ゆるやかな丘陵に森と湿地が広がる。ナビゲーションを存分に楽しめるテレインだった。



## 感激！ 雪と森のナビゲーション！

今まで、日本国内のスキーOはオープンなテレインで開催されることが多かった。しかし、今回の福島県スキーO大会のテレインはテレインの90%が森の中でのレースだった。視界が限られるため、マップコンタクトの回数は多くなる。

今回のテレインは丘陵地。ルートの取り方によってはアップが多くなったり、急な登り下りが待っている。スキーオリエンテリングでは距離の短いルートを取るよりも高速走行できるルート取りをした方が多い。さらに大会当日の雪はかなり硬く締まっており、スキー技術さえあればオフトラックの走行も可能な状況だった。

その結果、多くの選手が自分の能力に合わせてルート選択を変えている。

ME トップの丸山哲史はかなりオフトラックを直進してトップラップを叩き出したようである。これも彼のスキー技術のなせるワザと言えるだろう。

福島県メンバーのスノーモービル隊によるコース整備状況も申し分なく、素晴らしく楽しいレースを満喫することができた。これぞまさにスキーオリエンテリング！

## 湿地を使え！

夏のフットオリエンテリングでは「開けた湿地」できるだけ避けて通る。草が茂って通りにくいし、足がドロドロになるからだ。しかし、今回のスキーOでは「開けた湿地」は快適な滑走ルートになっていて、レース中は好んで湿地を利用した。湿地のあるところは水平でアップダウンが少ないし、あたり一面は雪原となっていて、スケートイング滑走ができるのだ。

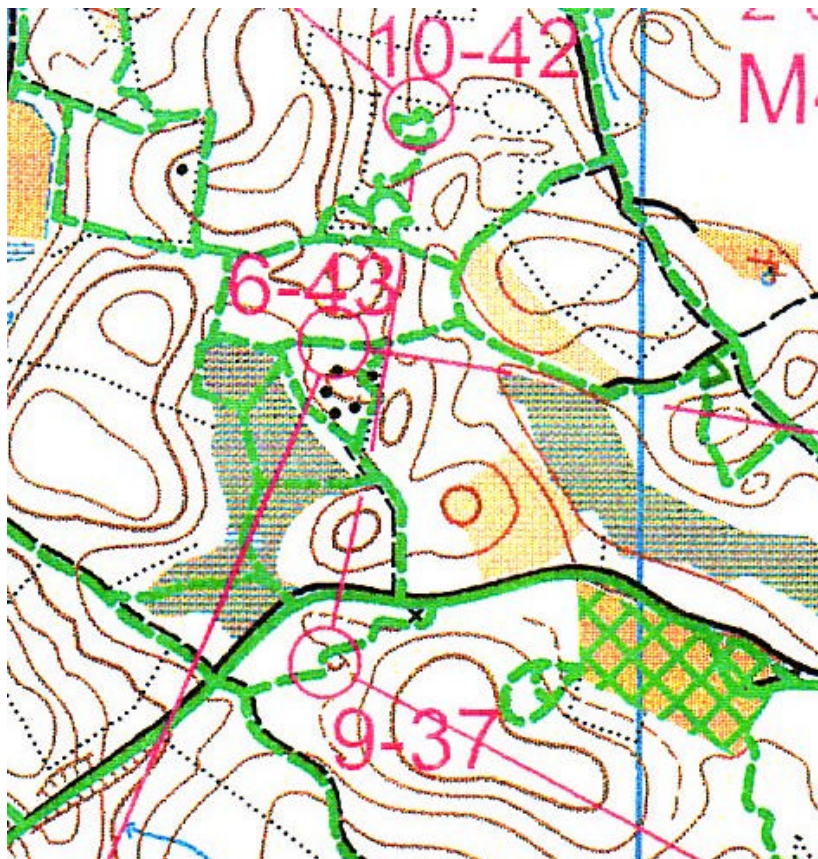
今回のテレインは森の小道にモービルのトラックが付けられているが、山道は狭く、開脚したスケートイング走行が難しい。そんな森の中でイッキにスピードに乗れるルート選択、それが湿地走行なのだ。

## 絶叫マシン！

今回のテレインは森の小道を使用しているため、それほど広いトラック幅ではない。しかも雪は結構硬く締まっているため、下りでは相当なスピードになる。そう、下り坂に差しかかるたびに絶叫マシンになるのだ。さすがに叫び疲れたので、レース序盤から自信のないところはスキー板を外して降り降りした。レースと言えども安全第一。そして何よりもレースをしている他の人にぶつかるのだけは避けたいよね。

時折テレインですれ違う選手は軽やかに下りをこなしている。今の私の技術では、このテレインを軽やかに踏破することができない。もっと精進・精進。

関・丸山哲史・酒井佳子・植野由香ら、日本のトップレーサーとレース中にすれ違う。やっぱり私とは速さが違う。



(6)へのルートも、(9) (10)のルートも湿地経由が速い。

## うまくコントロールされたコース

スキーOでは滑走条件が当日の天候によって大きく異なる。雪質、気温、コース整備状況などによってトップ選手のタイムだって大きく違う。そんな中でMEトップの丸山哲史のタイムが97分。ウイニング100分設定だったので見事なコースコントロールだったといえるだろう。

### ロングディスタンス

#### ME

- 1 丸山哲史 (益田体協) 1:37:10
- 2 堀江守弘 (東北大) 1:49:10
- 3 元木 悟 (T白樺) 1:50:00

#### M21A

- 1 高島和宏 (T白樺) 2:05:43
- 2 関口道広 (入間市) 3:17:35

#### M40A

- 1 三澤儀男(日立工機) 1:51:04
- 2 木村佳司(長野県) 2:00:40

#### M55A

- 1 智田真人(秋田 OLC) 1:25:35
- 2 高原 進 1:29:58
- 3 磯村富也(岩国 OLC) 2:45:32

#### WE

- 1 酒井佳子(秋田県) 1:52:06
- 2 植野由香(旭川市) 2:14:24
- 3 白鳥桂子(札幌市) 2:54:55

#### W21A

- 1 大里真理子(東京都) 2:38:24

#### W40A

- 1 植松裕子(水上 SC) 1:48:13

#### MB

- 1 荻田育徳(OC 下野) 1:26:11
- 2 渡辺英男(鳩の会) 1:33:09

#### 中学男子

- 1 渡辺 幸(愛宕小) 2:05:18



るんるんーん (高橋美和)

雪と戯れる山田健一(北海道)  
森の雪原を自由に滑るにはそれなりの技術が必要。



## 初心者最適スプリントコース

この大会は2日にわたって開催されており、1日目は短距離コースによるスプリントレースであった。初めてスキーOで1:5,000の地図を使ってみたが思ったより使いやすい。地図が大きいので現在地を地図を目で追やすい。

スキーOは両手がポール(ストック)で塞がっているために、マップホルダを体の正面につけてオリエンテーリングを行う。サムリーディングができないので目で地図上の現在地を追わなくてはならない。これが意外と難しい。地図が大きいとこのマップコンタクトが容易となる。特に初心者にはこうした1:5,000の地図がやさしくて良いのではないかと思った。

しかし、コース距離が長くなると1:5,000の地図ではマップホルダにコースが入りきらない。この縮尺で収まるのはスプリントコースのみである。

レース中に地図を折り返すことが難しいスキーOでは上級者クラスでは1:10,000以上の縮尺を使って地図をコンパクトにする必要がある。

### スプリント

#### ME

- 1 丸山哲史(益田体協) 12:29
- 2 堀江守弘(東北大) 15:14
- 3 元木悟 (T白樺) 16:49

#### M21A

- 1 高瀬雅樹(佐久市) 28:33
- 2 関口道広(入間市) 30:54

#### M40A

- 1 荻田育徳(OC 下野) 22:07

#### M55A

- 1 高原進 () 15:35
- 2 智田真人(秋田 OLC) 16:10
- 3 磯村富也(岩国 OLC) 26:54

#### MB

- 1 高野健治(郡山市) 28:03
- 2 小坂猛 (東京 OLC) 33:09

#### WE

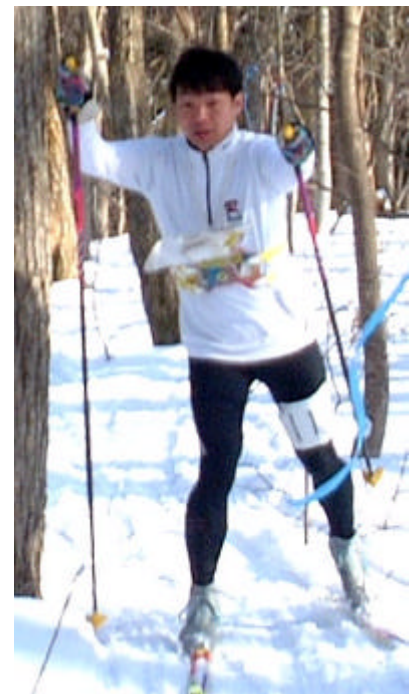
- 1 植野由香(旭川市) 19:37
- 2 白鳥桂子() 23:22
- 3 高橋美和(水篤刈) 26:46

#### W21A

- 1 大里真理子() 27:10

#### 中学男子

- 1 渡辺幸 (愛宕小) 29:15



(木村佳司)